

インクジェット技術で多様なニーズに応え事業を拡大**新たに「インクジェット事業部」を設立****—平成 33 年度 売上高:1000 億円を目指す—**

平成 28 年 12 月 26 日

富士フイルム株式会社(社長:助野健児)は、インクジェット技術で世の中の多様なニーズに応え、事業のさらなる拡大を図るため、平成 29 年 1 月 1 日付で「インクジェット事業部」を新たに設立します。

近年、インクジェット技術は、短納期、多品種少量生産、一枚毎に異なる印刷ができるバリアブル印刷が可能という特長から、カタログやダイレクトメールを印刷する商業印刷分野、サインディスプレイ分野に加え、食品・日用品の包装容器、布地や壁紙・床材等を印刷する産業用途においても使用されており、その活用範囲が拡大しています。昨今では、樹脂や金属を用いて立体構造物をつくる 3D プリンティング、電子回路を形成するプリントドエレクトロニクスといった分野でもインクジェット技術が活用されはじめ、さらなる市場拡大が期待されています。

当社は、平成 17 年以降、産業用インクジェットヘッドのリーディングカンパニーである米国の FUJIFILM Dimatix,Inc. や、家庭用・産業用を問わず各種ヘッドの特性にマッチする多様なインクを製造できる英国の FUJIFILM Imaging Colorants Ltd.および FUJIFILM Speciality Ink Systems Ltd.を買収。これらのもつ優れたインク、ヘッドに当社独自の画像処理技術や化学合成技術を組み合わせ、先進的なインクジェット技術を開発してきました。

そして平成 23 年には商業印刷分野向けに、高速でオフセット印刷を凌駕する高画質を実現する次世代インクジェットデジタル印刷機「Jet Press 720」^{※1}を世界に先駆けて開発しグローバルに提供してきました。

今回、新たにインクジェット事業部を設立することにより「ヘッド」「インク」「画像処理」、全てを自社グループ内で一貫して開発できる強みを活かしながら、さらなる経営資源の集中を行い、商業印刷のみならず、今後の成長が見込まれる産業用途や 3D プリンティング等の新規分野における新たなビジネスを創出し、平成 33 年度に同事業で 1,000 億円の売上拡大を目指します。

富士フイルムは、今後も先進独自の技術を用いて画期的な製品を開発・提供し、世界の産業の発展に貢献していきます。

※1 プリントヘッドを一列に並べて印字幅を拡大させ、記録媒体(用紙)に対してヘッドを 1 回だけ走査させて高速で印刷することにより、4 階調・1200dpi の高解像度で、印刷でよく用いられる用紙サイズである菊半サイズ(最大用紙サイズ:750 mm×530 mm)の印刷が可能なインクジェットデジタル印刷機。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係 コーポレートコミュニケーション部
富士フイルム ウェブサイトTEL 03-6271-2000
<http://fujifilm.jp>